

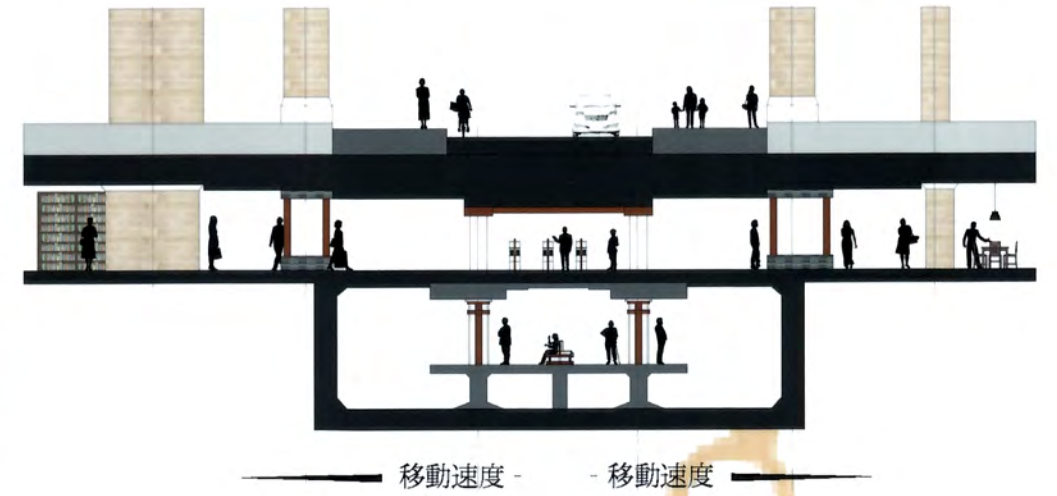
# 江戸再表現の玄関



## 三越前

平らな床に対比して、天井高がホームから地上へいくにつれ高まり、スムーズで一貫的に連続した空間の流れを狙う。地上で南北を走る中央通りと地下で南北を走る銀座線に挟まれた広々とした地下1階は、柱列を境とし、「メロ」空間と「ショップ」空間に分けることによって、急ぎ用の高速レーンと散策用の低速レーンに区別し、地上空間との連続性を表すことができる。また、地下階ショップの充実性と一体化した体験を提供する。

ショップ アーケード 廊 道 廊 アーケード ショップ

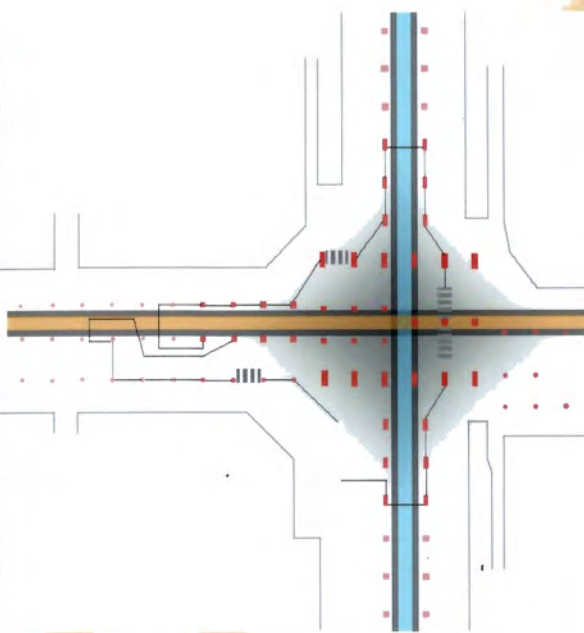


地上に林立したルネサンス様式建築の名残である三層構成ファサード(上層=空間表現、中層=機能表現、下層=重量表現)のコンセプトを内部空間に表現する。現代建築の面一外観に対して凹凸で特徴を示したファサードを、ホーム天井に投影させ、地上空間の特色を協調する。



日本橋再生計画の概念である「CORE (中核) + EDO (江戸)」をモチーフに、駅の改札口を町屋の玄関として捉え、現代性を表した「EDO」を表現する。地上の永代通りと中央通りと交差した中心点を地下空間では、柱が中央へいくにつれ細かくデザインにグラデーションをつけることによって、柱列が混在したなかでも分かりやすい方向性を表せる。

## 日本橋



一部透明なホームドアで、イラスト付きの扉の開閉によって、対岸に見える景色が若干変わったりすることによって、一方通行の2面2線形式ホームに相互的なコミュニケーションを導入するねらいである。

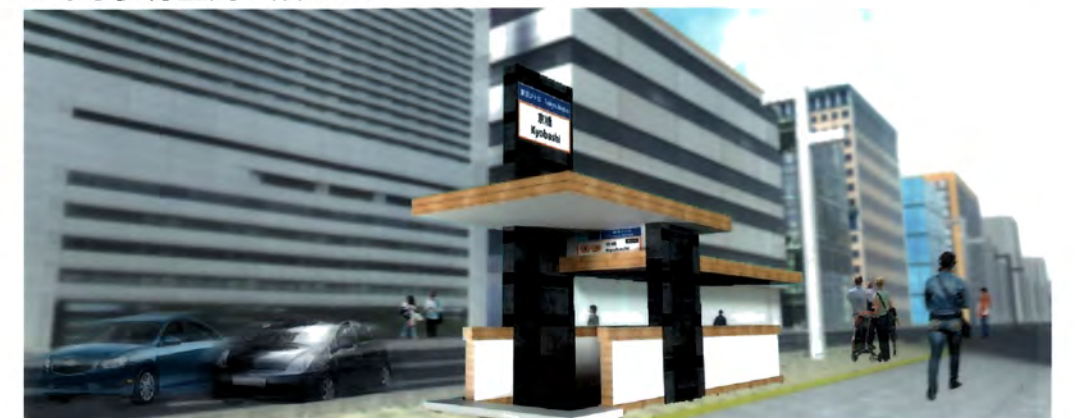


壁や天井に石材によるレンガの模様を用いて、銀座煉瓦街の始点だった面影を再表現する。スクエアガーデン側の広さに対して、細長さを強調した通路として設け、互いの空間的優劣を補い合う。暗色系のタイルが生み出したニュートラルなビジネス感に、帯状の暖色光を沁み込ませることによって、暖かい視環境が生まれる。

## 京橋



通路側の天井高を上げることによって、比較的に狭小なホームに少しゆとりのある歩行空間を設ける。



中央通りの水平性と高層ビル群の垂直性に沿い、直交方向要素を最小限にして、街景観の美しさに加味されたづくりである。